

8 働きがいも 経済成長も



Goal 8 働きがいも 経済成長も

DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH

●この目標(Goal)の解説

この目標8は継続的な経済成長の実現を目指すと同時に男女や障がい者の壁を越えたすべての人々の生産的な雇用とディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい雇用)をもたらすことを目標としています。

目標8は「包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」ことを目標としています。しかし何が何でも経済成長をすればいいという問題ではありません。なぜなら経済成長だけを追求してしまった結果が大量生産・大量消費なのです。これは持続可能ではないうえ、環境にもよしくありません。つまり目標8における経済成長とは環境や人権の尊重などにも配慮しなければならないのです。



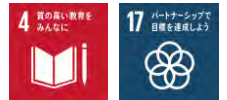
先進国である日本はこの目標に対してどのような課題があるのでしょうか？日本の非正規雇用率は38.2%となっています。つまりパートやアルバイトといった低賃金かつ不安定な労働条件のもとで働いている人が約2179万人もいるということです。さらにこの非正規雇用労働者の約68%は女性が占めており、女性の経済的地位向上が課題となっています。また障がい者の民間企業の法定雇用率が2.2%と海外と比べて低く設定されているにも関わらず、それすらも達成できていない企業が52%もあります。さらに日本はいわゆる「ひきこもり」が15~39歳で約54万人、40~64歳で約61万人に達するほどの現状です。これらからターゲットの8.5の実現には程遠い現状であることが分かります。日本もこの目標のキーワードである「ディーセント・ワーク」の実現には数多くの課題が残っているのです。

●大学生協での実践事例



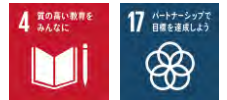
宇都宮大学生協 ビジョンナビゲーションセミナー

大学入学後、「社会に出るまでに何を目標として大学生活を過ごせばよいか分からない」という学生が多いという実態を把握し、大学生活を自分なりにデザインした先輩の経験を伝える場としてビジョンナビゲーションセミナーを実施しました。様々な経験を持った先輩学生が新入生に経験を伝えるだけではなく、自分自身を成長させるためのマインドセットについての学習会やSEQを活用した自己分析なども行いました。



長崎県立大学シーボルト校生協 就活フェスタ

上級生が起案し、上級生向けの取り組みを行うことで3、4年生に生協を身近に感じてもらうことを目指し、興味関心の高い就活についての取り組みを行いました。そのため、組合員が自分の行動やなりたい姿、将来について考えるきっかけにすることができました。企画内容も企業と協力したり、大学の就職課と協力したり、上級生・下級生がお互いに連携したりすることで、より多様な組合員を巻き込める工夫がされていました。



●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること／自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう！